

特集3

# デザインする街—11

## 住宅で街をつくる〈千葉県・幕張ベイタウン〉

1995年、「住宅で都市をつくる」というコンセプトでスタートした「幕張ベイタウン」は、今までにない質の高い街に成長し、楽しい、豊かなライフスタイルが展開されています。世界に誇れる14年目の住宅都市「幕張ベイタウン」を検証します。

# MAKUHARI BAYTOWN

幕張ベイタウン 中庭を取り囲む口の字型の集合住宅「パティオス」が建ち並ぶ。屋根もデザインされ、俯瞰しても美しい街並みが広がっている



# 英知を結集した「幕張ベイタウン」

根本 亮  
RYO NEMOTO

【特集3】デザインする街 11

私は幕張新都心の住宅整備の初期、いわゆる「幕張新都心住宅地基本計画」の策定、事業計画の策定、民間事業者の選定、「都市デザインガイドライン」の策定など、1987年から4年間かかわりを持ちました。当時、沼田武知事が政治生命を懸けて進めていた「千葉新産業三角構想」の中で、先導的なプロジェクト・幕張新都心の整備が、「幕張メッセ」[\*1]、「ワールドビジネスガーデン」[\*2]、「幕張テクノガーデン」[\*3]など、政策的施設の着工や、企業の誘致も順調に進んできたことから、住宅地の事業化が緊急の課題でした。しかし、「海浜ニュータウン」としての構想はありましたが、「国際情報都市幕張」としての住宅整備計画はありませんでした。従来、千葉県企業庁（以下、企業庁）の土地の分譲については、ニュータウンづくりもそうですが、基盤整備を企業庁が行い、その後、民間事業者にすべて任せるシステムを採っていました。幕張の住宅整備を考えた場合、84haの広大な土地を分割・分譲し、各事業者自由に任せると、各事業者は

MAKUHARI BAYTOWN

経済優先の住宅に走り、住宅の配置もデザインもばらばらになることは明らかであり、到底街にならないであろうことが予想されました。これでは我々が目指している「国際情報都市幕張」のコンセプトに反することになり、先行している業務研究地区などの景観形成デザインとも整合しないこととなります。そこで、街、住宅づくりの専門家の方々のお知恵を借りるべく、1987年「幕張新都心基本計画策定委員会」を立ち上げました。渡邊定夫先生に委員長、蓑原敬先生に副委員長に就任していただき、委員会の運営をリードしていただきました。議論していただいた主たる点は、「国際情報都市にふさわしい居住環境と都市デザインを備えた21世紀の都市型ライフスタイルをリードする住宅」を基本コンセプトとして、従来のような住宅団地を提供するのではなく、街をつくることであり、その具現策の第一歩が沿道中庭型の集合住宅の提案でした。蓑原先生から出された記憶としておりますが、中庭型の提案には私を始め、企業庁の関係者は

ねもと・りょう—1955年、千葉県入庁。千葉県の基盤整備にかかわる。1987年、千葉県企業庁地域整備部長。1989年、千葉県企業庁長。幕張メッセを始め、幕張新都心の整備にかかわる。



は最初驚きました。中世ヨーロッパで盛んに建設されたことは知っていましたが、その中庭タイプの住宅が、21世紀を先取りする住宅整備とどのような接点になるのか初めは理解できませんでした。現に日本に沿道中庭型の住宅など存在していませんでした。そこで担当者に、改めて従来の住棟型配置住居と、沿道中庭型住居のどちらのタイプが賑わいの街に相応しいのか、既存の住宅団地など視察させ、比較研究させました。

日本には既に数多くの団地が存在していましたが、従来の住棟型配置住居では街の賑わい、居住者のライフスタイル、住居と街の一体化が難しい。それに比べ、沿道型については4面とも道路に面することができ、各種の演出の可能性、特に企業庁が考えていた海岸沿いの幹線道路のロードサイドショッピングゾーンの構想に十分応えられるのではないか。そのような結論になり、委員会の提言を受け、ここに日本で初めて最大の沿道中庭型の住宅建設を決定いたしました。なお、この委員会で大きなフレームはすべて決定しました。その後すぐに「事業計画策定」会議を立ち上げました。少し遅れて民間事業者の選定、「都市デザインガイドライン」の策定などに入りました。民間事業者選定のこと少し触れますと、当時はバブル期であったこと、また、事業規模が大きく事業者にとって大きな魅力があったことなど、多くの企業から公募がありました。私個人としては企業庁が決めたフレーム、「都市デザインガイドライン」など、しっかり守って事業を進めていただくには、少ないグループの方が望ましいと考えておりましたが、あまりに強い要望で6グループにならざるを得ませんでした。事業者決定の際、事業者の方々には企業庁が決

「幕張ベイタウン」から業務研究地区を望む。手前に広がる緑地は幕張海浜公園と見浜園



めたマスタープランなどについて責任者、担当者が代わっても忠実に守っていただく旨申し上げたこと、今でも覚えております。問題は、渡邊先生、蓑原先生始め、多くの学識経験者の英知、莫大な調査費をもって立派なマスタープランをつくりましたが、年月が過ぎるにつれ企業庁、事業者も人が変わり、いつの間にかマスタープランの「哲学」が風化してしまうのではないかと、これを防ぐのは、強力なマネージャーを定め、街が完成するまで指導していただく、このことに尽きると考え、沼田知事に相談し、渡邊先生、蓑原先生にお願いすることとし、知事から委嘱いたしました。住宅建設が始まって20年、両先生には今日までご指導いただき、基本計画に沿って竣工に近付いてきましたが、この判断は間違いでなかったと自負しているところです。

住宅建設が始まってすぐバブルがはじけ、企業庁も事業者も厳しい期間が長くありましたが、両先生のご指導、企業庁の後輩の頑張り、事業者の理解、特に計画設計調整者のご苦勞、事業計画調整委員の方々には事業者側にもかかわらず、企業庁サイドに立って事業者をコントロールする2足のワラジを履かされ、苦勞の連続だったと思います。

幕張は、たくさんの方々のご努力により、世界に誇れる、また、日本における住宅整備と街づくりに一石を投じたと思います。街が完成に近付いたことに対し、当事者の一人として関係者に対し深い感謝をしたいと思ひます。\*

【\*1】幕張メッセ (1989) 横総合計画事務所  
 【\*2】ワールドビジネスガーデン (1991) 日本設計  
 【\*3】幕張テクノガーデン (1990) 幕張テクノガーデン設計共同企業体 (清水建設・新日本製鐵・日本電信電話)



左上—緑豊かな幕張ベイタウン  
 上—マリンデッキから夕日に映える「幕張ベイタウン」を見る。中央の道路は「美浜プロムナード」



特集周辺地図



# 三井不動産の「幕張ベイタウン」参加

大室康一  
KOUICHI OOMURO

おおむろ・こういち—三井不動産 代表取締役副社長／1945年生まれ。1968年、早稲田大学政治経済学部卒業。同年、三井不動産入社。1990年、千葉支店長を皮切りに、ビルディング営業本部営業部長、常務取締役、専務取締役を歴任し、2005年より現職。

左—パティオス11番街中庭  
右—ポルティコ 1階部分をセッパックして設けられた空間。雨や日差しを避けて自由にショッピングができる



【特集3】 デザインする街 11



上—美浜プロムナード 左はパティオス1番街。右手前から2番街、4番街、6番街。パティオス1～6番街は第1期(1995)の開発。外観は基壇部、中間部、頂部のデザインを分節させるなど、「都市デザインガイドライン」が設けられている  
下—手前からパティオス1番街、セントラルパークイースト。車道と歩道には段差がほとんどなく、「幕張ベイタウン」オリジナルのポラードが設置されている

## MAKUHARI BAYTOWN

### 1. 波乱万丈のスタート

事業コンペにより民間事業者36社、6グループが選定されたのは、バブル崩壊直前の1991年1月でした。当時、「幕張メッセ」を中心とした幕張新都心の立ち上がりは成功事例として高い評判を呼んでいたのです。

時代の勢いもあり、この新しい集合住宅をデザインする挑戦的な街づくりに主なデベロッパーはこぞって手を挙げました。“都市に住む”という視点から、複合性・開放性・賑わい性・場所性をキーワードとして、新しい街を創るマスタープランは斬新な試みでもありました。しかしその後バブルが崩壊し、社会情勢が一変したのです。全国の主な大規模開発は、ほとんど白紙撤回、もしくは中断を余儀なくされました。このプロジェクトも例外でなく、中断させないための悪戦苦闘が企業庁始め計画設計調整者の先生方、そ

して事業者で始まったのです。

### 2. 三極体制から生まれた「幕張方式」のさまざまな仕掛け

着工までの約2年間、喧々諤々の議論と折衝と調整の日々でした。当時の企業庁は、よく我々の意見を聞いて決断してくれたと思います。

公共としての“理念”を貫きながら民間と協調してプロジェクトを主導していく。そのリーダーシップがあったからこそ、今の「幕張ベイタウン」があると思います。

事業計画調整委員の渡邊先生、蓑原先生を座長として専門家の先生方がアーバンデザインを推進し、企業庁が理想の街づくりを標榜する。そして事業を実施する民間事業者が三極にパートナーシップを組むことで、ダイナミックなアイデアや緻密なデザインがさまざまに織り込まれていきました。

特に土地転賃借地権分譲方式の導入は「幕張方式」と称せられ、その当時“土地所有から土地利用へ”と言われ始めていた時代の流れを先取りしたカタチとなりました。

プロジェクトを中断させないための苦肉の策ではありましたが、土地代のウエイトを減らしたことで良質な建物と一回り大きな居住空間を供給する良い解決策ともなったのです。現在は、多様な土地利用の形態として定期借地権という制度が出来ましたが、その先駆けと言えるかもしれません。

「幕張ベイタウン」には、沿道中庭型建物という特徴があります。通常のマンションは南向き住宅を多く確保することが優先されますが、従来の常識では不利となる手法を採用してでも街並み形成に重点を置き、資産価値を上げるという概念にもデベロッパーとしてチャレンジしたわけです。

その結果、街区、中庭という発想、屋根の美しさや分節された建物デザイン、そして取り込みバルコニーなど街全体での取り組みに成功した画期的な事例ではないでしょうか。現在、そのソフトを通じて住民の方が独創的なコミュニティを形成しつつあると感じています。

### 3. 協調と競争、そして開発事業に大きな影響を及ぼした「幕張ベイタウン」

民間事業者6グループは、それぞれ競合相手でした。しかし“協調と競合”を合言葉に、街づくりでは長期ビジョ

ンを共有し、一体となって推進しました。一方、販売プロモーションでは、6グループが合同で販売センターを構え、競争原理をうまく働かせ、非常に注目されるプロジェクトとなりました。

振り返ってみると「幕張ベイタウン」のデザインは現在のマンションのデザインに大きな影響を及ぼしていると思いますし、景観や街並みが高い価値を有することをこの街から発信できたと感じます。弊社においてもダイバーシティをコンセプトとする「ミッドタウンプロジェクト」[\*1]や、公民学連携の街づくりを進める「柏の葉キャンパスシティプロジェクト」[\*2]などで、そのDNAは着実に受け継がれています。

### 4. 「幕張方式」から幕張スタイルへ

「幕張ベイタウン」の美しい街並みは、国際千葉駅伝のコースやCMの舞台となって全国に紹介されています。しかし街づくりの本番はこれからであると感じます。今後どのようにタウンマネジメントを行っていくか。「幕張ベイタウン」を選んだ住民の方々の意識の高さこそが、街の価値を持続させる大きな推進力となります。「幕張ベイタウン」が、地域主体のサステナブルに成熟していく街として次の世代へと受け継がれていくことが求められているのです。

ぜひ、「幕張スタイル」を全国に発信し、日本を元気にするモデルの街になってほしいと思います。そして我々もその求められる新たな都市像や、次世

代のライフスタイルの実現に向けて努力していきたいと考えています。\*

【\*1】 東京ミッドタウン  
([INAX REPORT] No.171, p.41~参照)  
【\*2】 柏の葉キャンパス  
([INAX REPORT] No.175, p.41~参照)

パティオス14街区付近 街には20～30代の若い家族が多い





# 13歳の「幕張ベイタウン」の今 街としてつくられた住宅地は育ったのか

荻原 敬  
KEI MINOHARA

【特集3】 デザインする街 11

## 1. 「幕張ベイタウン」という街

2008年11月8日の土曜日、折悪しく小雨がぱらついている「ベイタウン・コミュニティ・コア」の中庭に一本の月桂樹が植えられた。この木を寄贈して、「幕張ベイタウン（以下、ベイタウン）」の住民代表や集まった子供たちと一緒に自ら手植えの鋤入れをしたのは、千葉ロッテマリーンズ監督のポビー・バレンタインである。2008年から、ロッテが一勝するたびに、彼のポケットマネーから木を一本贈るという「ポビー・ビクトリー・グリーン・プロジェクト」を始めたが、彼自身「ベイタウン」の住民として、3月22日一勝分の木を、「ベイタウン」に寄贈したのだ。コネチカット州の郊外住宅地に住むという彼が、「ベイタウン」に住んで何を感じているのか、この機会を利用して、彼に直接聞いてみることにした。

彼はもう4年この街に住んでいるという。「この街はとても快適です。何でも歩いていける範囲に揃っている。自然環境に優しく木が多いだけでなく、運動場などの遊び場もたっぷりあるし、街の空間に秩序があって、綺麗だし、車もゆっくり走っている。とても気持

ちが昂る（uplifting）街です」。お店を排除して純粋な住宅地にしようとする住民感情もあって、本当の街にはなっていないのではないかと水を向けても、「そういう話は聞いているが…」とさらりと受け流すだけだった。短い会話の中に、気配りが行き届いた表現だったが、「ベイタウン」の計画意図を見事に凝縮して喋ってくれた。

だが、この街に住む人々の今の本当の気持ちはどうなのだろうか。1997年に企業庁が行なった居住者アンケート調査では、この街を選じた理由として、回答者の73%は「街並みが気に入ったため」と答えている。個々の住戸、住棟の優劣ではなく、他の場所のマンションで得られない街並みの価値がしっかりと受けとめられている。ネット上でも住民同志の交流が盛んなのが分かるので、その仲間に入りたいという動機で入ったという人も結構多いと聞いている。街区単位での住民交流を重視する、この街並みの計画理念は有効だったのかどうか。実際、全ての街区に設けられている中庭でパーティーが開かれる機会が多いようだし、集会所もよく使われていると聞く。この街に

みのはら・けい——都市プランナー・幕張ベイタウン事業計画調整委員/1933年生まれ。東京大学教養学部アメリカ科、日本大学理工学部建築学科卒業。1960年、建設省（現・国土交通省）に入省。ペンシルバニア大学院で都市計画を学ぶ。建設省、茨城県で都市計画と住宅行政の政策立案と実施の現場を経験。1985年、袁原計画事務所設立、現在に至る。  
主な著書：『街づくりとリーダーシップ』（学芸出版社 2002）、『成熟のための都市再生 人口減少時代の街づくり』（学芸出版社 2003）など。

移り住んだ人がこの街に誇りを持っていることやいろいろな住民活動への参加意識が高いことは様々な形で示されてきた。例えば千葉市の公民館にもなっている「ベイタウン・コミュニティ・コア」の成り立ち。特に、住民の負担で、公民館では手に入らない演奏会用のピアノ、ファツィオリを買ってしまった経緯。毎年5月初旬に、住民の手だけによって開かれる、「ベイタウン祭り」の賑わいの高まり。千葉ロッテマリーンズが優勝した時の紙吹雪パレードの実施。特に、その後、ゴミとなった紙吹雪が数十分で回収されてしまった逸話などが神話のように語り継がれている。

今、また、二つの大きな流れがうねり始めている。一つは、千葉市の教育委員会によって計画されていた二つの中学校が一つに纏められ、その一つの予定地が開発保留地になっていた。そこに住宅が開発されることになり、中学校は一つで足りるという説明に危惧を抱く、数多くの住民が強い反発を示している。千葉市や企業庁にとっては面倒な問題だが、住民の意識の高さを図る鏡になっている。もう一つ、企業

庁は、この街の運営管理のあり方に関する研究会を住民の有志も参加して行い、前向きの将来展望を提示した（2008年3月）。この調査の結果、間も無く開発事業段階を終え、管理運営の段階に入るこの街は、街の質を継続的に維持する上でいろいろな障害があることが分かってきた。しかし、それが切掛けとなって、住民有志による住民横断的な活動が始まっている。今年からは、自治会連合会が国交省からの「200年住まい・まちづくり担い手事業」の補助を受け、活動が一段と活性化している。先日、各戸配布された「ベイタウンまち育てニュース」の発行、今後、予定されている連続的な街づくりのシンポジウムの開催などがその象徴である。

開発の過程には紆余曲折があり、必ずしも当初の計画意図どおりには出来上がっていない部分はある。西欧の長い都市の歴史の中では何処に

でもあるのに、日本では何故か実現できていなかった特異なハードの居住空間が造り上げられてしまったのは事実である。入居してくる住民は、それに感応して、都市的な香りが高いライフスタイルを持ちこんでいる。そのライフスタイルの一部には、住民の主体的な活動の広がりや深さが存在していることも事実のよう

である。

『VERY』という雑誌の2001年3月号は「シロガネーゼ」と並んで「ベイタウン」では「美浜ハッピースタイル」が成立していると報じていた。実際、街を歩いていると、人々の服装や連れ歩く犬の姿にもあるスタイルが感じられる。僕の友人の若い女性は街に流れ



「美浜プロムナード」沿いの広々とした歩道 街路樹が多く四季の移ろいを楽しめる。左に見える建物は「ベイタウン・コミュニティ・コア」



ベイタウン・コミュニティ・コア 公民館、音楽ホール、図書館、子供ルームなどを併設した千葉市初の複合施設



上——「ポビー・ビクトリー・グリーン・プロジェクト」の様子 植栽を終えたバレンタイン監督。「幕張ベイタウン」には記念すべき1勝目の苗木が寄贈された。2～18勝目は千葉県内の教育機関に、19勝目以降は抽選によって選ばれたマリナーズ・ファンに贈呈されている（写真提供：千葉ロッテマリーンズ）  
下——各戸に配布されている「ベイタウンまち育てニュース」







左—車道、歩道には花崗岩が敷き詰められ、一体的なデザインがされている  
下—壁に取り付けられたエンブレム 建築設計者の協議によって住棟ごとにさまざまなシンボルが設置されている

る穏やかな時間を感じ取って、「ムーミン谷」のようだと思いついたし、「ベイタウン」の外の人々が「スノップだ」、「お高く留まっていて、馴染めない」という声も聞こえてこないではないか。

地球温暖化時代、200年住宅など使われていない都市住宅資産の形成が叫ばれ始めている。しかし、200年保たせることができるのは住宅ではなく、住まいと生活利便施設や身近な緑を備えた「街」である。街のハードな空間だけでは無く、そこに住む人たちの持続する意志である。「ベイタウン」は、13年の歴史を経て、明らかにそのモデルの一つとして成立したと言える。

## 2.「幕張ベイタウン」は、 どうして可能になったのか

従来の住宅団地が標榜する「太陽、緑、空間」だけでは街は出来ない。住宅と道路との深い繋がり、沿道性の確保が必須だ。沿道には最寄りの店や床屋などのサービスの店、小さな事務所など生活を支える活動が広がり、親しみと賑わいを演出して生活に彩を添えることも必要だ。しかし、そのためには、人と車の共存が必要で、信号処理には馴染まない、人優先の街路計画と運転モラルが要請される。住宅地として静かな憩いの空間、さりげない交流の空間が必要でそのためには、ゆとりがある、デザインされた歩道空間が必要だし、閉じた中庭の配置が有効だ。そのような基本的な街の要素を備えて

いるのが、西欧に普通に見られる街だし、日本の伝統的な街にも形こそ違え、存在し、僕たちはそこで育ってきた。それが、住宅純化型の団地の佇まいでは見事に消えうせる。一戸一戸の住戸の性能に拘わって、それを最適化しようとするために起こる合成の誤謬の結果だし、敷地単位で開発することを許す結果、それが街のレベルにまで及んでしまい、秩序感覚が全く欠落した市街地しか持てない日本になってしまっている。また、一棟一棟の住宅のデザインには気を使うのに、街並みの形成にはデザインが無い。

しかし、それを直そうとすると、道路や公園の計画と住宅やお店が入る建物を一体的にデザインしなければならぬし、日当たりが悪い住戸も数多く出てくる。道路や公園はそれぞれ自分の領土だと主張する縦割りの組織があって、都市デザインが成立できない日本の公共組織、街並みを価値とは認めない法律の支配下にある建築行政、日当たりだけを売りにする習慣が強い日本の住宅事業者にとって、「ベイタウン」の計画意図は認めがたいものだったはずだ。通常の、縦割りの公共組織、敷地主義、市場優先主義に立てば決して実現できなかったプロジェクトだった。

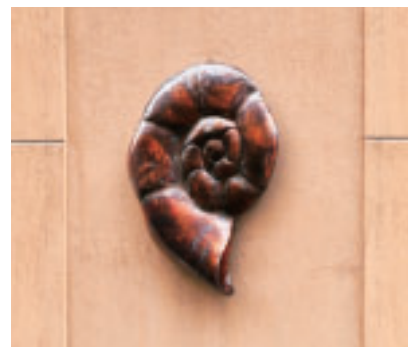
それを実現したのは、先ず、優れた住宅地を作るという、トップの強いリーダーシップ、当時の千葉県知事の揺ぎ無い強い意志だった。事務局が書いた答弁にない形でその意志が県議会で示された。それを受け、その意志を忠実に具体化しようとする企業庁の組織体質があり、幹部の包容力があるリーダーシップが途絶えることがなかった。そして企業庁は、優れた専門家集団の意見を素直に受け止め、不安を抱きながら、無理を重ねながらも、専門家の意見に耳を傾け続けた。必ずしも専門

的な知見があるわけではない知事と企業庁の幹部に対して、専門家の意見を是として、これを強く押し続けた、高い眼差しをもった企業庁の技術職員の固い志が核心にあったようだ。

そして、そのような意志に感応し、リスクをとりながら、社内の反対を押し切って協力した民間事業者、特に36社に及び民間事業者のまとめ役を果たした大手の事業者の心意気も欠かすことができない必要条件だった。金儲けに走る市場優先主義とは距離を置いた文化的な姿勢が必要だった。

県と民間事業者の間に立ちながら、長年果たせなかった夢を実現するために、途切れることなく10数年にわたって骨惜しみをせずに付き合ってきた専門家の集団の存在も欠かさない要素だった。それら全てが上手く噛み合っ「ベイタウン」という「街」、都市の舞台が出来上がったのだ。

このような「街」が、次々と用意され、「ベイタウン」に劣らない住宅による都市の舞台が形成されて行って欲しい。何故なら、そうでなければ、世代を超えて持続性のある社会資産を積み上げるといふ都市本来の歴史を日本では継承できないからだ。それなくして、少子高齢化時代、地球環境時代を凌ぐための「200年住宅地」を築いていく術がないからだ。\*



# Show 商空間

## 「ラ キュイジーヌ ドゥ カズ」 La Cuisine de "KAZU"

フランスの田舎家にいる気分

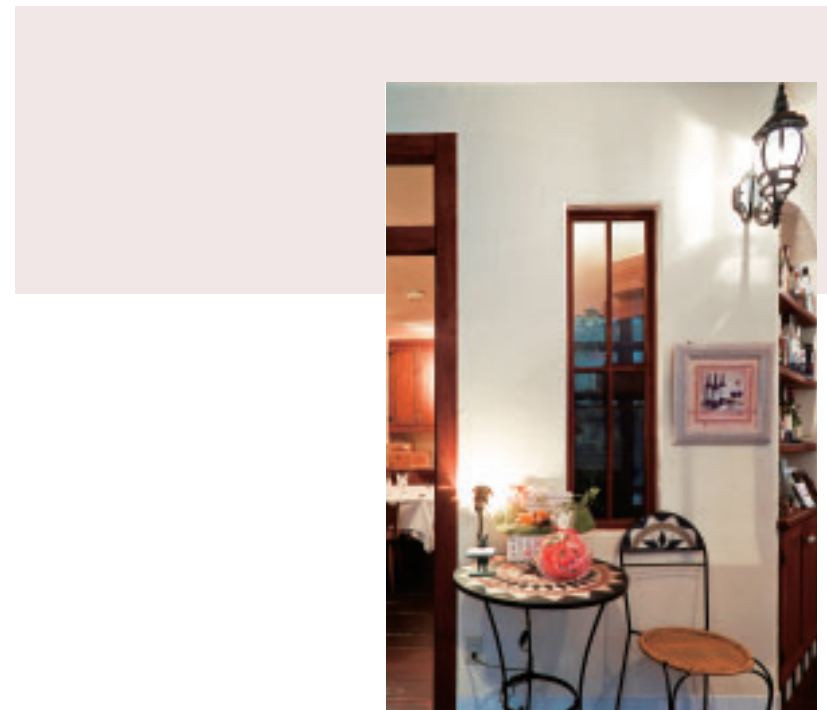
根本義和  
YOSHIKAZU NEMOTO

ウィンドサーフィンをしていましたから、幕張の浜は昔から知っていました。そのうち、近くにすごい住宅地が出来たのを知って「独立するならここ！」と思いました。すごく綺麗な街らしいし、海も近いし…。そして、念願になって1999年、「ラ キュイジーヌ ドゥ カズ」はパティオ15街区の角地に開店しました。店舗のインテリアは、友人の店をやった大工さん。フランスの家庭料理の店ですから、質素であたたかい雰囲気…とお願いしたところ、「木造っぽい雰囲気」を強調したインテリアにまとめてくれました。サッシの窓枠をすべて木で覆って、床、壁、そして天井と、いかにもフランスの田舎家という感じでしょう。気に入っているんです。

それから「幕張ベイタウン」の特長は、住棟に「パティオ（中庭）」があることですが、うちの店ではそれをインテリアのテーマにして、店内は中庭のイメージでまとめられているんです。屋は大きな窓からさんさんと日の光が降り注ぎ、明るい中庭で昼下りのランチ…。そして夜ともなると街灯が灯り、夕べの中庭に变身。キャンドルの優しい光の下でディナーを召し上がっていただく。部屋の中に街灯があるのは、そういう意味なんです。

サンタリー空間にはうちのマダムのこだわりが活きていて、小さいながらもゆったり感が出るように細かいところにも気を配っています。淡いピンクの壁や鉢を利用したテラコッタ製の洗面器など…、フランスの田舎の家庭のようなお洒落で優しい雰囲気があります。\*（談）

ねもと・よしかず—住人・ラ キュイジーヌ ドゥ カズシェフ。



街灯や窓が、まるで屋外のような感じの店内入り口付近

窓枠、床…、と至る所に木が使われ、質素ながらも温かい雰囲気を感じられる店内



淡いピンクの壁など、マダムセレクションのゆったりとした洗面室



夕暮れ時の「ラ キュイジーヌ ドゥ カズ」。店内の照明が大きな窓からもれ、温かな雰囲気を醸し出している



## 幕張ベイトウン

すべてが海を中心に…

坂本紀代子

KIYOKO SAKAMOTO

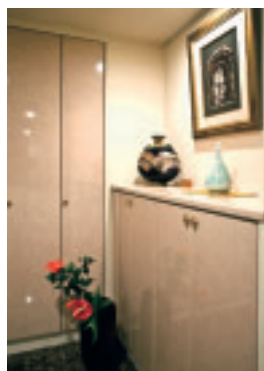
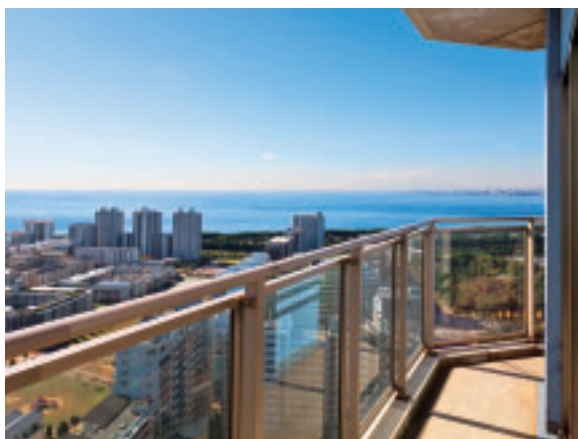
主人も私も海が大好き人間で、リタイアしたら海辺に住むのが夢でした。ある日“高層階のマンション”というチラシに惹かれて、何となくモデルルームを見に行きましたら、東京湾があまりにも美しく、もうびっくり…。そうなんです、飛び付きました。失礼なことに、その時は「幕張ベイトウン」のことなんか何も知らずに、海のことしか考えていませんでした。まもなく東京湾を一望できるこの部屋に移り住んで、ちょうど8年くらい。大きなカリンのテーブルと、ゴロンとできる長椅子が2つ、それ以外は何もいらない…。そういうシンプルな生活を楽しんでいます。四季の変化はもちろんですが、一日の中でも風景が変わりますし、特に、落日の美しさは例えようがありません。こんなにも豊かな自然を享受できる生活が、都会の中でいただける。本当にありがたいことだと思います。でね、いつの間にかカメラと日本画にはまってしまうました。この美しさを何かにとどめずにはられない心境と言ったらキザかしら。とにかく、毎日、撮ったり描いたり忙しくしております。

街とはいえば、「幕張ベイトウン」はとにかく便利な街で、何もかもが揃っています。スーパーはもちろん、銀行も病院も郵便局も公民館も消防署もございますし、素晴らしいコンサートホールもあります。すべてが自分の街で賄えるのは素晴らしいと思います。住み始めた頃は、毎日のようにレストランに通ったものです。それに、マリナ球場でビールを飲みながら野球観戦をする。これは最高の夕涼みです。でもロッチが優勝してからはチケットが取りにくくて、ちょっと残念ですが…。\* (談)

さかもと・きよこ—住人。

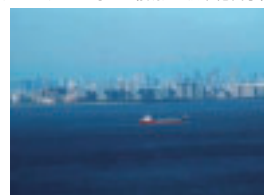
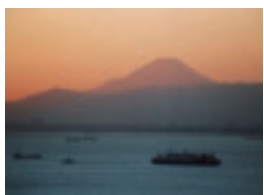


リビング 手前にあるのがカリンの一枚板のテーブル。東京湾が一望できる



左—ベランダからの風景 対岸は浦安 上—玄関 壁に掛かっている絵は坂本さん直筆

部屋から見える景色 (撮影：坂本紀代子)



私流のおもてなし

吉識敬子

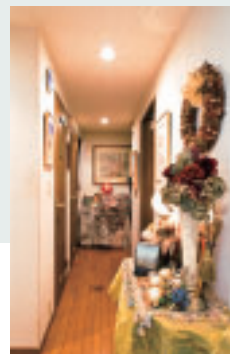
KEIKO YOSHIKI

うちを訪ねて下さった方が「うわーっステキ」って喜んで下さるのが、とてもうれしい。私はお客さまが大好きで、いつもウェルカムなんです。やっぱりオランダ暮らしの影響が大きいと思います。すいぶん前になりますが、5年ほどオランダに住んでおまして、その時にカルチャーショックでライフスタイルがすっかり変わりました。あちらの方の「おもてなしの精神」は素晴らしい、いつも「お待ちしております！」という雰囲気でお迎えして下さるんです。それがすごくうれしくて、日本に帰ったら私もそうしようと思いました。インテリアも、おもてなしのひとつなんです。

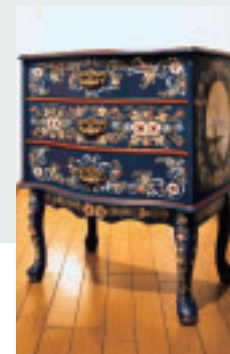
それから、お部屋をとってもステキに飾るんです。オランダの方にとっては、それが長い冬を楽しく過ごす工夫のひとつなんです。自分が楽しむだけではなくて、他の方も楽しめるように…。自然にそう考えるところが良いですね。例えば、大きな窓にとってもこだわっていて、決してカーテンで閉じたりしない。道行く人にも「どうぞ楽しんで！」というようなお部屋の飾り方をします。季節感を大事にしたライフスタイルは素晴らしいと思います。特に、クリスマスの際は、窓辺に大きなクリスマスツリーを飾って、それは見事です。でも、わが家のインテリアは私の趣味。オランダの方はもっとシンプルかもしれません。

「幕張ベイトウン」は街並みがオランダに似ていて、何となくヨーロッパっぽい感じが大好きです。偶然ですが、この8番街は外国暮らしの経験者が多くて、中庭でワインを飲んだりクリスマスパーティをしたり、交流が盛んで楽しいですよ。\* (談)

よしき・けいこ—住人・ペインティング教室主宰。



廊下



オランダで習得したペインティングで仕上げたチェスト (吉識さん制作)



トイレ室内の飾り付けもクリスマス仕様



上—リビング 窓辺のクリスマスツリーは年ごとにテーマカラーを決めて飾り付ける。2008年のテーマカラーは白 下—同見返し すべての飾りがクリスマス仕様。中央のドールハウスの中も、ひと部屋ひと部屋がクリスマス仕様

